

ソウル特別市立オリニ（子ども）図書館

1998年3月、韓国における唯一の児童専門の公立公共図書館である「ソウル特別市立オリニ（子ども）図書館」（以下、オリニ図書館と略）を訪問した。現在当館でも「国際子ども図書館」の建設準備が進行中であり、大いなる関心をもって見学した。

オリニ図書館は、ソウルの都心にある古宮・景福宮の近く、社稷公園内の静かな一角に、一見小学校かと思わせる白く瀟洒なたたづまいを見せていた。

この図書館は、幼児および小学生を主な対象とした子どものための公共図書館として、国際児童年を記念して1979年5月4日ソウル特別市教育委員会によって設立された。敷地面積5,619.8㎡、建物は3階建て2,454.8㎡の中に、第1、第2閲覧室、幼児室、教員・主婦室、貸出および巡回文庫室、視聴覚室、お話し室、教養講座室、保存資料室などがあり、1996年末からは電子情報資料室が加わった。資料は主に国内発行の子どもに関連したものを中心に、図書147,566冊、その他雑誌や新聞、CD-ROM658タイトルを始めとした各種視聴覚資料等を所蔵している（1997.12.31現在）。なかでも図書資料は、韓国語図書146,967冊、東洋書446冊、西洋書153冊と、西洋書に比べて東洋書、特に日本語図書の割合が多く、分野的には文学、社会科学、歴史の資料が特に多い点が興味深い。閲覧室でのインターネットや電子資料（CD-ROM）の利用も可能であり、さらに資料のデータベース化にあわせて検索用の端末も設置されている。また、資料選定委員会で利用者の

希望を取り入れるため、端末によるリクエストを行っている。ただし、コンピューターを操作できない利用者のためには希望図書用ノートが用意されており、職員が後から入力するそうである。職員は1997年末現在、行政職3名、司書職12名、技能職22名の計37名。ちなみに韓国の図書館では司書職はみな司書資格を有しており、行政職と司書職が分化している点で日本よりも司書の専門職としての性格が強いように感じられた。利用時間は3月～10月は9時から18時、11月～2月は9時から17時、休館日は毎月第1、第3月曜日および日曜日を除外した官公署の公休日、利用者数は1日平均約530人、うち5分の4は子どもの利用である。

オリニ図書館が他の公共図書館と比べて特徴的とされるサービスが2つある。1つは、オリニ図書館から遠く、図書館活動の弱い地域の幼稚園や奉仕館等の特殊機関を対象に、1回に100～200冊の貸出を行なう巡回文庫の運営であり、もう1つは、教育専門図書・読書指導用図書・研究論文集などの教育関係資料をそろえ、教員・主婦の研究活動を援助する教員・主婦室である。同館は児童専門図書館として、子どもを対象としたサービスはもちろん、そこに深く係わる教員や父母へのサービスを通して、学校や家庭がより良い読書環境になるよう熱心に働きかけていると感じられた。

今回の訪問は、児童専門図書館のサービスとその対象とする範囲について考えるいい機会になったと思う。

（アジア資料課 網野 美美）